



園長だより

NO.2 2023年10月 園長 押部 直也

やっと出せました…No.2。書きたい事や伝えたい事、研究してみたい事は日々の園生活の中で溢れる程に浮かんでいきますが、それを形にするための集中力の継続と時間の使い方が恐ろしく苦手です。注意散漫、好きな事しかやらない。じっとしてられない…。子どもの頃からずっと言われていたような気がします（笑）。これと向き合い、克服するための心の強さはどうやら持ち合わせていないことに気付いたため、最近は受け入れることにしております。皆様もどうか温かい目で気長にお待ちいただければ幸いです。

さて、前置きが長くなってしまいましたが、今回は行事の在り方や考え方をお伝えするおたよりです。行事については、毎年の保護者アンケートでもたくさんのご意見をいただいておりますので、この園長だよりを通じて少しずつお伝えしていきたいと思っております。今回は過去に行っていた夏の行事（夕涼み会、プール、お泊まり会）に焦点を当ててお伝え致します。開園当初から通ってくださっている方々は馴染みのある行事だったかと思いますが、中々変更の理由を丁寧にお伝えする機会を設けられませんでした…。そして、夏までに配信予定でしたがもう秋…。さらには、前回からだいぶ間が空いてしまった事で長文に…。大変申し訳ございません。

夏の行事を考える際に付きまとう暑さ問題…

毎年のように起こる暑さ問題。今年も危険な暑さと向き合う日々でした。印西ひかりこども園では、環境省の基準に合わせて主に気温や湿度等を総合した暑さ指数(WBGT)を用いて外遊びの可否を判断しております。そして今年の8月の外遊びは、ほとんど皆無でした。そんな状況が続いていると「今日のこの暑さなら、少しぐらい外遊びをしても良いのでは…」という気持ちになる日も、正直に言うことがあります。ただ、ここで意識しなければならないのは、子ども達一人一人の暑さへの強さがその日によって違うという事。睡眠時間や朝食の量など、その日のコンディション次第では熱中症になりやすい状況の子もいます。そして、『激しい運動は控える』という環境省の指針を、遊びに夢中になる子ども達が意識できる年齢ではないという事。その全てを把握して外遊びの時間を調整することは、今の私には難しい…。環境省が一定の基準を設け、運動や炎天下を控える数値に達している状況の時に、園として明確な根拠がないまま、外での活動や行事を行う事はできません。今回お伝えする夏の行事変更についても、この暑さによる問題が大きく影響しております。

夕涼み会で1番大事にしたかった思い、お店屋さんへの変更

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう前は、夏の時期に「夕涼み会」という行事がありました。全学年で保護者の方々も一緒に参加していただき、縁日ごっこや盆踊りを親子で楽しむ行事でした。コロナ禍の影響もあり、中止になってしまう年度が続いておりましたが、この「夕涼み会」はコロナ禍の前から前述の暑さ問題により、毎年変更が必要な行事として議論しておりました。

大きな悩みは、当日にならないと暑さがわからないという事。雨天時の対策も含めて室内での実施は計画しておりましたが、仮に当日が猛暑日だった場合…。縁日や盆踊りの設定をした環境で、乳児を含めた園児と保護者の方々が密集してしまう状況は、たとえ建物の中でも熱中症の危険がある。だからといって急な延期も負担が大きい。この問題を抱えている以上、園行事として変更は必須でした。

このように行事の変更が必要となった際に、私が必ず最初に行うことは、その行事で1番大切にしたい思い（保育のねらい）は何かを職員と考える事です。変更が必要になるという事は、従来の行事の思いを全て網羅する事は難しい場合が多いので、その行事で1番大切にしたい思いは必ず貫くようにして、その他の思いは変更が必要な状況に応じて取捨選択していくようにしています。つまり、その行事の思いの根底がぶれないように舵取りをすることが私の役目だと思っております。

では、私達が「夕涼み会」で1番大切にしたい思いは…。意外かもしれませんが、『お店でのやり取りを楽しみ、興味関心を持ってもらう事』でした。もちろん、お祭りの雰囲気味わってもらいたい、親子でのふれあいを楽しんでもらいたいなど、様々な思いも含まれてはいましたが、お店でのやり取りの楽しさがその後の保育の中で繋がり、協力することの必要性や達成感、社会性の育ちへと発展してくれたら良いな…という思いが根底にありました。この思いは必ず貫きたい。今年度から年間行事に4歳児、5歳児クラスのお店屋さんごっこを明記したのは、この変更を形にしていくという決意が込められております。0歳児から3歳児クラスの子供達には、お兄さんお姉さんが行うお店屋さんごっこに参加することで、少しでも思いが伝われば良いなと思っております。

プール遊びのリスクマネジメント

現在は「水遊び」としてお伝えしておりますが、こちらも新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう前は、3歳児から5歳児クラスでは組み立て式の大きなプールを使用し、「プール遊び」として学年毎に楽しんでいました。この「プール遊び」を「水遊び」へと変更した経緯は、暑さ問題やコロナ禍での制限（人と人との距離をなるべく離す等）もとても大きい

ですが、1番の理由はプール遊びへのリスクマネジメントでした。詳細を述べるとさらに長くなるため割愛しますが、保育中の重大事故における主な要因は窒息を伴う事故がほとんどで、睡眠、食事、水を溜めて行う活動は特に注意が必要な行為だと、私達保育者は常に意識しながら仕事をしております。そして、近年のリスク管理の研修に参加するたびに講師の先生方からは、「水を溜めて、大勢の子ども達が一斉に遊ぶプール活動はリスクが高すぎる！」「大きなリスクを負ってまで園でプールを行う必要性はあるのか？」と必ずと言っていいほど言われます。もちろんリスクを全て排除した保育は子ども達の成長にとって必ずしも良い環境であるとは言えませんし、そのリスクと向き合い、配慮しながら提供する手立てを検討するのも保育者の重要な任務である事を自任しております。ただ、私達がプール活動で1番大切にしたい思いは『水に慣れて遊びに没頭し、水遊びが夢中になれる時間にする事』でした。この思いを根底に考えると、重大事故が起きる主要因に位置付けられているプール活動を継続するよりも、水を溜めずに遊べる活動を採択した方が間違いなく良い。幸いにも井戸を掘り、水を自由に使える環境は整えてある。子ども達が窒息する可能性を排除し、色々な道具使った「水遊び」に変更する事が現時点での最善の選択だと信じ、実行することにしました。

*お泊まり会からナイトキャンプへの苦悩

「お泊まり会」という行事も、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう前まで5歳児クラスを対象に実施しており、夕方から集合し、次の日の午前中まで園内で楽しむ行事でした。この「お泊まり会」を現在の泊まらずに夜に帰る「ナイトキャンプ」へと変更した経緯は、暑さ問題も重要な要素ではありましたが、最も大きな課題は、子ども達への養護の保証と職員の働き方の問題でした。

保育における養護の中には“情緒の安定”という側面があります。この側面も重要な位置づけとして行事を考えなくてはならないと思っております。私が毎年参加しながら変更の必要性を感じていたのは、例年数人の子ども達が不安に耐え切れず、途中で泊まらずに帰ったり、寝る前に泣いてしまう子がいるという事でした。また、保護者の方々の都合がつかず、次の日も夕方まで園で過ごす子もいました。もちろん「お泊まり会」が子ども達の成長の肥やしになったというご意見をいただく事が多かったのも事実です。ただ、途中で帰る選択をしたり、次の日も夕方まで園に滞在する子達が、苦い思い出となっていないだろうか…。一律に保護者から離れて泊まるという行為は、もう少し年齢を重ねてからでも良いのではないだろうか…。という不安が私の中では課題でした。

また、この「お泊まり会」は職員の働き方も大きな課題でした。5歳児以外の学年は通常通りの保育があり、さらには夜勤という仕事が業務として確立している職種ではないため、

どうしても職員の配置が特殊な状況となり、「お泊まり会」に参加する職員は決してクリーンな働き方ではありませんでした。職員から不満が出たことはありませんでしたが、無理をさせてしまっている事で、職員にも安心して働いてもらいたいという私の理念とのズレが悩みの種でもある行事でした。

色々な葛藤があった中で、この「お泊まり会」で1番大切にしたい思いは、『特別な時間の中で、自分達で生活をする充実感や達成感を得る事』でした。そこから泊まるという選択を諦め、泊まらずに楽しむ方法を模索してきた中で現在の「ナイトキャンプ」へと変更を決断しました。夕涼み会と同様にとっても大きな変更となり、決断に至るまではかなりの苦悩と勇気が必要だった行事でした。ただ、短い時間になったからこそ、より子ども達が“自分達で”という意識を持って「ナイトキャンプ」に臨んでくれている姿を見ると、悩んだ事も意味があったのではないかと感じております。また、この意図を汲んで保育を計画してくれている職員にもとても感謝しております。きっと、根拠を明確にするだけの客観的な理論のうるさい園長だな…と、思われている事でしょう(笑)。

*これからの日本の夏と向き合う保育、課題や思いを明確にして

行事を見直す体制の確立を目指して…

私は気象関係の専門家ではないため詳しいことはわかりませんが、どうやら近年の「異常な暑さ」は毎年のように言われているので、来年以降も続くのでしょうか。つまり「異常」ではなく、これが「日本の夏の暑さ」として色々と考え直さなければいけないという事だと思います。「今年の暑さは異常だから〇〇ができないのは仕方がない」ではなく、そしてその場しのぎでもなく、これからも続くのであろうこの暑さに向き合い、暑さに影響されにくい持続可能な保育を展開していく事が私達に求められているのだと思います。

そして今回お伝えしてきたように、行事の変更は暑さ問題だけが原因ではなく、様々な要因が影響している事が事実です。本音を言えば行事の変更や縮小をする事は私にとって苦渋の選択であり、不安の種でもあります。ただ、これからは担う子ども達にも課題に目を背けてほしくはない。そして職員にも安心して働いてもらいたい。だからこそ園を管理する立場の私が率先して向き合わなければ、きっと子ども達にも職員にも響きはしない。行事に課題や不安があるのであれば、園としてその行事で1番大事にしたい思いを軸にしながら変更できる職場風土を作りたい。この思いを汲み取っていただき、保護者の皆様におかれましては、行事等の変更を受け入れていただければ幸いです。そして、次回からはもう少し短くまとめられるよう努力致します…。